

読書活動を推進するための の 授業案



ここに掲載しましたのは、
教員1年目の先生が考え
た図書館利用のアイディ
アです。

読書活動の充実は、学習指導要領にも明示されています。
学校図書館や地域の図書館などと連携し、読書の幅を広げ、
読書の習慣を養うなど、生涯にわたって読書に親しむ態度を
育成することが重要です。

お詫び

一部出典が漏れている箇所がありました。
関係者の方には、大変ご迷惑をおかけしました。

ブックリストを作成しよう

概要

自分が今までに読んだ小説や新書などで、クラスメートに読んでもらいたい本をピックアップし、「ブックリスト」にまとめ、プレゼンテーションを行う。

ねらい

身近な友から本の紹介を受けることで、読書に対する興味・関心を喚起し、自ら進んで読書をする態度を育む。

授業の実際

- 1 時限目 ブックリストの作成
一人3～5冊の本を選び、その本のタイトル、作者名、出版社を記載し、その本のお薦めを30字程度でまとめる。（本の帯を意識させる。）
- 2 時限目 プレゼンテーション
- 1 4～6人グループでブックリストを使い、本の紹介をする。
 - 2 一人1分～1分半でプレゼンテーションをする。
 - 3 グループの中で、「一番この人が紹介した本を読みたくなった」という人に投票する。
 - 4 選ばれた6・7人は、全体の前で発表する。
 - 5 クラスの中で一番読みたくなった本を選出し、後日読む。

読書を楽しもう

概要

授業目標「読書への興味をもち、学校図書館を積極的に利用する姿勢をもとう」を設定し、グループ活動を取り入れながら授業を行う。

ねらい

生徒の読書を推進するために、より積極的に実用的な学校図書館利用を促す。

授業の実際

- 1 時限目 読書に興味を持つ時間
- 1 「本は楽しむためのもの」という内容の、教師による「本」のプレゼンテーションを聞く。
 - 2 本の一節を紹介する。
 - 3 「今読みたいこんな本！」を書く。
- 2 時限目 学校図書館を知ろう
- 1 司書教諭から、図書館の仕組みや購入状況、図書館利用について話を聞く。
 - 2 前時に記入した「今読みたいこんな本！」を基に、図書館内から一冊本を探し、借りる手続きをする。
 - 3 2週間後までに借りた本を読み、面白かった部分、思っていたところと違った部分などをワークシートに書き留めておくように指示する。
- 3 時限目 読んだ本を紹介しよう
- 1 ワークシートと読んだ本を利用しながら、本の紹介をすることを確認する。
 - 2 他のメンバーに伝える工夫をしながら、本の紹介をする。
 - 3 1～2人、クラス全体の前で発表する。

感想発表会をしよう

概要

グループによる読書活動を行う。読書テーマを決め、それに対応した課題図書を教師が選び、グループで同一本を読む。読んだ本の感想をグループで発表し合う。

ねらい

2週間に1回のペースで感想発表会を行い、本を読むことを習慣付ける。

授業の実際

事前準備 課題図書を読み始めよう

- 1 読書テーマを伝える。
- 2 クラスをいくつかのグループに分け、グループの数と同数の課題図書を決める。
- 3 本は一人1冊行き渡るようにする。

【例】テーマ「家族」……課題図書『小さき者へ』（重松 清）

1 時限目 感想発表会をしよう

- 1 大きなリング式単語帳に、個人で簡単な感想を書く。
- 2 感想は、特に気になった文章や語句を挙げ、理由を書くようにする。
- 3 グループで自分の感想を発表する。

次回以降 別の課題図書を読み、読書量を増やそう

- 1 班ごとに課題図書を交換する。
- 2 感想発表会を繰り返し、全班が読んで一巡するようにする。
- 3 単語帳は、取り外しが自由に出来、並べ替えも容易である。授業以外に読んだ本の感想も記入するようにさせる。
- 4 学年末に50音順にカードを並べ替え、目次をつくり、「読書記録帳」を完成させる。

ポップづくりをしよう

概要

本屋さんや図書館で使われているポップを自ら作成することで、本に対する興味を広げる。

ねらい

自分が読んでいる本を紹介し合い、読書への興味関心の幅を広げる。

授業の実際

- 1 「朝の読書」で読んでいる本を用意する。
- 2 黒板に貼ったポップの例を見て、ポップとは何かを理解する。
- 3 様々な紙や筆記用具を用い、ポップをつくる。
- 4 ポップには、本の中で一番面白く感じている場面を書くようにさせる。
- 5 できあがったポップを、グループの中で見せ合いながら、本の紹介をする。
- 6 他者の紹介を聞きながら、本の紹介で興味をもった点やポップの工夫されていると感じた点などをワークシートに記入する。
- 7 紹介を聞き終わった後、読んで見たいと思った本の題名とその理由を記入する。



自分の好みの本を見付けよう

概要

毎時間の授業の最初に「ショートショート」を読む時間を設定する。小説のタイトルと2・3行の感想を書き、読書記録をとっていく。その読書記録を授業で利用する。

ねらい

定期的に読書生活を振り返ることで、自分にとって必要なものを選んで継続して読んでいく習慣を付ける。また、様々な分野の本へと読み広げることにつなげる。

授業の実際

- 1 読書記録を読み返し、自分の好きなジャンルの傾向を客観的に分析する。
- 2 どのようなジャンルが挙げられたか、発表し合い、クラスの傾向をつかむ。
- 3 クラスで挙げられたジャンルの中から、普段読まないが興味をもつジャンルを選ぶ。
- 4 3で選んだジャンルの本を、図書室で1冊借りる。
- 5 後日、読書記録に加える。

同じテーマの本を読み比べよう

概要

おとぎ話や伝承を通して身近な「鬼」を題材とした単元である。親しんできた「鬼」を追求することで、興味・関心をもちながら様々な文章を主体的に読む。

ねらい

同じテーマの文章を数多く読んで、様々な立場や角度から読み比べ、読み手の視野を広げる。

授業の実際

1 時限目 初読の感想を書こう

- 1 センター試験に使用された「おんなの鬼」（馬場あき子）を読み、感想を書く。

2 時限目 グループごとの課題設定をしよう

- 1 提示された「研究テーマ」から、グループでテーマを選択する。
- 2 テーマに従って、比較する本を数冊選ぶ。
- 3 「おんなの鬼」を再び読み、グループのテーマに従って、読み取ったこと、感じたこと、比較して予想されることをワークシートに記入する。

3・4 時限目 読解と比較読みをしよう

- 1 筆者の考え、ポイントになる言葉を見つけ出す。アンダーラインを引いたり、付箋を使用したりする。
- 2 比較した本の要旨をまとめさせ、次に比較した本からわかったこと、考えたこと、感じたことを理由付でまとめる。
- 3 「おんなの鬼」と比較して考えたこと、感じたことを理由付でワークシートにまとめる。
- 4 資料のどの部分を使用するか明確にする。テーマに即した、グループ内の意見を十分出し合い、情報を十分整理しまとめる。

5 時限目 発表資料作成をしよう

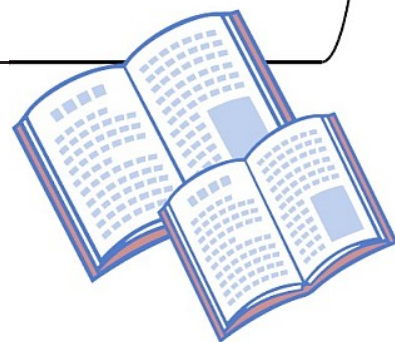
- 1 説明計画メモをつくる。
- 2 説明の要点と順序、説明に用いる資料、その他準備する資料や発表形態をメモをする。
- 3 リハーサルをし、発表の割り振りや時間内の発表ができるようにする。

6 時限目 相互交流発表会をしよう

- 1 発表時間3分で、各グループの発表を行う。
- 2 発表の際は、相互評価表を用い、自分の意見と比較しながら、優れている点、気の付いた点を自由に書く。

7 時限目 振り返りをしよう

- 1 発表会の感想一覧を配布し、他者の意見や気づきを再確認する。
- 2 他者の意見から得られた新たな「読み」の確認をしながら、「おんなの鬼」を読み再び読み直し、内容理解を図る。



比較読みに使用する本及び参考資料

- 『おんなの鬼』 馬場 あき子 1996年センター試験本試験より
『鬼の研究』 馬場 あき子 ちくま文庫
『鬼がつくった国・日本 歴史を動かしてきた「闇」の力とは』 小松 和彦, 内藤 正敏
知恵の森文庫
- 『鬼の系譜 わが愛しの鬼たち』 中村 光行 五月書房
『鬼の伝説』 邦光 史郎 集英社
『鬼ものがたり』 大橋 忠雄 明石書店
『どこかで鬼の話－鬼の本をよみとく－』 奥田 継夫 人文書院
『聊斎志異』 蒲松 齡 作 立間 祥介 編訳 岩波少年文庫
『日本の随筆 狂』 中村真一郎 編 作品社
『あやし～怪～』 宮部みゆき 角川書店
『井上 靖全集 第7巻』 新潮社
『日本昔話【謎】と【暗号】』 歴史の謎研究会〔編〕 青春出版社
『伊勢物語』 「芥川」
『今昔物語』 福永武彦 訳 日本古典文庫
「鬼のつぶやき」「陰陽師の子供が鬼神を見る話」「玄象の琵琶が鬼に取られる話」
「内裏の松原で鬼が女を食う話」「安義の橋に現れた鬼女の話」
「恋人と泊まった堂に鬼が出る話」「鬼のため妻を吸い殺される話」
「漁師の母親が鬼となる話」「人の姿した鬼が射られる話」
「鬼の唾で姿が見えなくなる話」「欲心から娘が鬼に食われる話」
『今昔物語集』 「鬼のつぶやき」 杉本苑子 講談社
『宇治拾遺物語』 「鬼に瘧取らるる事」
『御伽草子』 「一寸法師」「酒呑童子」 やまだ紫 中公文庫
『長谷雄双紙』 「長谷雄と朱雀門の鬼」
『搜神記』 「定伯売鬼」 干宝
『昔話』 「食わず女房」「地藏浄土」「桃太郎」
『ないた赤おに』 浜田 廣介 白泉社
『だいくとおにろく』 松居 直 福音館書店
『おにたのぼうし』 あまん きみこ ポプラ社
『鬼が出た』 大西 廣 福音館書店
『おにの話』 牧田 茂 光村ライブラリー 光村図書出版
『オニの生活図鑑』 ヒサクニヒコ 国土社
『落語 「おにのめん」』 落語絵本 クレヨンハウスより
『能の友シリーズ 黒塚(安達原)』 川西十人 白竜社編
『マンガ能百番』 渡辺睦子 平凡社
『一冊で日本の心を知る100話を読む』 乾克己・小林保治・野村純一共編 友人社刊
「在原業平」「一寸法師」「鬼のこぶとり」「食わず女房」「地藏浄土」
「酒呑童子」「長谷雄と朱雀門の鬼」「桃太郎」「大工と鬼六」



リテラチャー・サークルをしよう

リテラチャー・サークルとは

ハーベイ・ダニエルズによって開発された、アメリカのディスカッション形式の読書指導法である。足立 幸子（あだち さちこ）新潟大学教育人間科学部准教授によって日本に紹介された。リテラチャー・サークルとは、本を読んできておしゃべりするサークルのような楽しい雰囲気での活動という意味である。

学習者が、自分の選んだ本を自分の役割にしたがって読み、グループで話し合うことを通して、

- ①読みたいという気持ちになる
- ②役割読みを通して読み方を身に付ける
- ③読んで考えたり見付けたりしたことを表出することを覚える
- ④友だちの読み方や考え方を知る
- ⑤読むことのおもしろさを味わう ことをねらいとする。

リテラチャー・サークルでは、単に独りよがり本の内容を読み取ればよいというだけではなく、自分がどのように感じ、考えたかを他の人に伝えなければならない。自分が読んでいることを同じグループの仲間に伝えるということ、他の人の読みを知ること、その読みについて楽しい雰囲気の中に話し合うことが、上手に構造化されているのである。進め方の例は以下の通りである。

- 1 グループに分かれ、読む文章を確認し、作業ペースを決める
- 2 グループの中での役割を決める

リテラチャー・サークルの役割

どのグループにも置きたい役割	必要であれば加えたい役割
コネクター (自分とのつながりを見つける)	サマライザー (要約をする)
クエスチョナー (疑問を見つける)	リサーチャー (作者、テーマなどを研究する)
リテラリー・ルミナリー (すぐれた表現などに光を当てる)	ワード・ウィザード (特別な語を取り上げる)
イラストレーター (目に浮かんだ情景を絵にする)	シーン・セッター (場面の特徴をとらえる)

* 次のような表現も使える。

コネクター → 「**接続者**」 (文章と自分たちの経験などの日常生活とをつなぐ)

クエスチョナー → 「**司会者**」 (話し合いをまとめたり、疑問点を見つけ各担当者に質問したりする)

リテラリー・ルミナリー → 「**文章表現担当者**」 (すてきだと思った表現、重要だと思う表現を朗読する)

イラストレーター → 「**イラストレーター**」 (読んで、得たイメージを絵に描く)

リサーチャー → 「**研究者**」 (本に書かれている事柄と関連した情報を調べる)

ワード・ウィザード → 「**ことば担当者**」 (出てくることばの意味を調べる)

サマライザー, シーン・セッター → 「**場面(段落)担当者**」 (場面分けをしたり、あら筋をまとめたり、要約したりする)

- 3 自分の担当する役割で、該当部分を役割シートに書き込みながら読む。
- 4 役割に基づいて読んだことをグループで披露し、話し合いをする。
単なる発表にならないように、質問に答え合ったり、関連する経験を出し合ったりしながら、話し合いを膨らませる。
- 5 それぞれのグループで読んで話し合ったことを、全体に紹介する。

<リテラチャー・サークル参考文献>

・益地憲一 編著 『中学校高等学校国語科指導法』 建帛社 2009

・足立幸子 「海外における読書指導の理論的背景—スペイン『読書へのアニメーション』を事例として—」 新潟大学学術リポジトリ 2008

概要

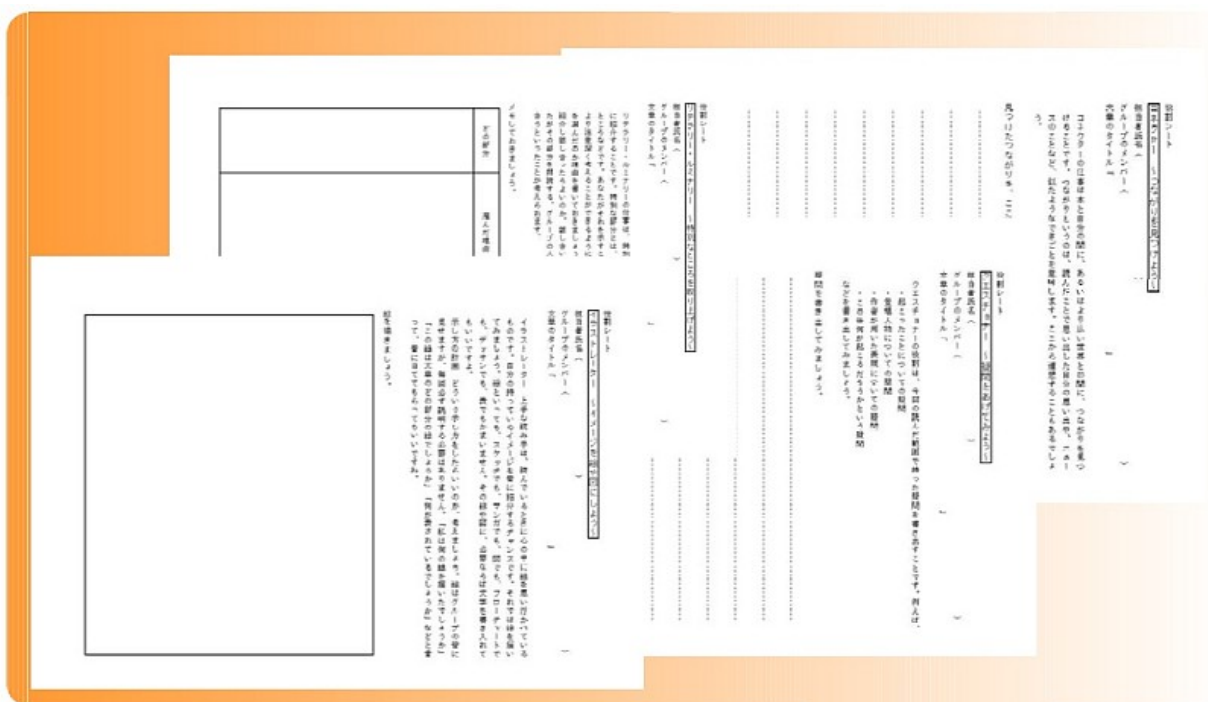
教師が提示した本（「読む、部活！」〈実務研ブックリスト2010〉）の中から同じ本を選んだ者同士がグループを組み、それぞれの役割に則った方法で読んだ後、話し合いをする。

ねらい

それぞれの視点から本の内容や登場人物について話し合うことによって、一人で読み味わう以上に、本の世界に親近感をもつことができるようにする。

授業の実際

- 1 教師が用意した本の中から、生徒が所属する部活、あるいは興味のある分野の本を選ぶ。
- 2 生徒が読みたい本を選んだ者同士で少人数のグループをつくる。
- 3 グループごとに、読むペースや役割などを考え、学習スケジュールを立てる。
- 4 スケジュールに従って決めた範囲を読み、それぞれの役割シートに感じたことを書き込んでディスカッションの準備をする。
- 5 書き込んだシートを持ち寄って、自由にディスカッションをする。
- 6 ディスカッションが終わったら自己評価を行う。
- 7 役割を変え、繰り返す。全員が全ての役割を体験できるようにする。



「読む、部活！」 〈実務研ブックリスト2010〉

- [弓道] 『たまごを持つように』 まはら 三桃 講談社
- [剣道] 『ひかりの剣』 海堂 尊 文春文庫
『武士道シックスティーン』 誉田 哲也 文春文庫
- [サッカー] 『RUN 流浪のストライカー, 福田健二の戦い』 小宮 良之 ダイアモン社
『サッカーボーイズ 明日への絆 君のためならがんばれる』
清水 久美子 KANZEN
『龍時』 野沢 尚 文春文庫
- [自転車] 『セカンドウィンド』 川西 蘭 ピュアフル文庫
- [水泳] 『夢の力こぶ』 北島 康介 角川つばさ文庫
- [チア-] 『GO!GO!チアーズ』 工藤 純子 ポプラ社
- [テニス] 『熱風』 福田 隆浩 集英社
- [飛び込み] 『DIVE!』 森 絵都 講談社文庫
- [馬術] 『きみはジョッキー』 松樹 剛史 ポプラ社
- [バスケットボール]
『リリース』 草野 たき ポプラ社
『走れ! T校バスケット部』 松崎 洋 幻冬舎文庫
『桐島, 部活やめるってよ』 朝井 リョウ 集英社
- [ボクシング]
『ボックス』 百田 尚樹 太田出版
- [野球] 『バッテリー』 あさの あつこ 角川文庫
『もし高校野球のマネジャーがドラッガーの『マネジメント』を読んだら』
岩崎 夏海 ダイアモンド社
『イレギュラー』 三羽 省吾 角川文庫
『スローカーブを, もう一球』 山際 淳司 角川文庫
- [ラグビー] 『静かなるホイッスル』 柴谷 晋 新潮社
- [陸上] 『ランナー』 あさの あつこ 幻冬舎文庫
『Run! Run! Run!』 桂 望実 文春文庫
『800』 川島 誠 角川文庫
『一瞬の風になれ』 佐藤 多佳子 講談社文庫
『チーム』 堂場 瞬一 実業之日本社文庫
『風が強く吹いている』 三浦 しおん 新潮文庫
- [ワンダーフォーゲル]
『ワンダードッグ』 竹内 真 新潮社
- [園芸] 『園芸少年』 魚住 直子 講談社
- [音楽] 『船に乗れ!』 藤谷 治 J I V E
- [軽音楽] 『ガール・ミーツ・ガール』 誉田 哲也 光文社
- [吹奏楽] 『モデラートで行こう』 風野 潮 ポプラ文庫ピュアフル
『楽隊のうさぎ』 中沢 けい 新潮文庫
『グラツィオーソ』 山口 なお美 アルフォポリス
『ビート・キッズ』 風野 潮 講談社青い鳥文庫
- [バンド] 『どこでもバンドやらいでか!』 丁田 政二郎 ポプラ文庫ピュアフル
- [天文学] 『夜の光』 坂木 司 新潮社
- [美術] 『アート少女 根岸節子とゆかいな仲間たち』 花形 みつる ポプラ社
- [文芸] 『"文学少女"』 シリーズ 野村 美月 ファミ通文庫
- [図書委員会]
『吉野北高校図書委員会』 山本 渚 MF文庫ダ・ヴィンチ